

環境マネジメント

客観性の高いマネジメントシステムの運用

東海理化グループは、経営理念の3つの柱のひとつに環境を取り上げ、環境方針に沿って、国内外関係会社を含めた環境活動を推進しています。

経営理念

(1998年8月改定)

3.社会の一員として、法と倫理を遵守し
自然・地域と共生する企業をめざす

1・2についてはP.2を参照

社員行動指針

(1998年8月改訂)全7項目より抜粋

経営理念に基づき、社員は会社と一体となつて自然保護と社会活動へ貢献します。

環境スローガン

(1999年4月制定)

人と車の調和をめざし、企業活動に伴う環境負荷の低減を図ります。

環境方針

1 経営理念、社員行動指針に基づき環境への取り組みを進めます。

主な取り組み項目 …………… 地球温暖化防止、省資源・リサイクル・廃棄物低減、化学物質管理 等新環境技術の積極的な導入・開発

2 法・地域や顧客との約束を守り、さらに自主目標を定め、環境汚染の未然防止を進めます。

3 環境委員会を設置し、継続的な環境改善活動を展開します。

環境保全活動取り組み体制

全社環境委員会

委員長 取締役社長 牛山 雄造
副委員長 取締役副社長 恒川 清
環境統括役員 常務取締役 中村 弘之
委員 各環境委員会委員長

製品環境委員会

生産環境委員会

本社工場環境委員会
豊田工場環境委員会
音羽・萩工場環境委員会
輸送合理化分科会
省エネ分科会

本社部門

事務棟環境委員会
VCセンター環境委員会
モノづくりセンター環境委員会
営業所環境委員会(東京・大阪・広島)
グリーン調達委員会
グローバル施設環境連絡会
国内グループ会社施設環境連絡会
環境社会報告書分科会 (2013年4月現在)

環境マネジメントシステムの継続的改善に努めています

ISO14001 認証取得状況

東海理化グループでは、客観性の高いマネジメントシステムを構築し運用することを目的に、ISO14001の認証を取得して環境活動を進めています。海外連結子会社は20社中15社が認証取得しています。

環境監査

2012年11月にISO14001審査機関による定期審査(サーベイランス)を受審しました。その結果、ポジティブポイント4件、観察事項8件の指摘がありました。東海理化のマネジメントシステムが規格に適合し、有効に実施されていると判断されました。

環境関連法の順守を徹底しています

環境関連法の順法教育

設備を導入する際、確実に法令順守する事を目的に、設備導入を計画する部署を対象とした順法教育を実施しました。全社で277名が受講しました。本教育は、今後も継続的に実施し、環境関連法に関する知識の向上を図ります。

環境負荷の増加に伴う BOD 処理装置導入

豊田工場では、排水の環境負荷の増加に伴い、BOD*処理装置を導入しました。より安全に排水を流すことを目的に、実務者への排水処理教育を行いました。

※BOD(Biochemical Oxygen Demand):生物化学的酸素要求量の略。
水質の汚れを表す指標で、水質汚濁防止法にて規制基準が設けられています。

国内外のグループ会社と連携したグローバルな環境活動を行っています



海外グループ会社との連携

各拠点の管理レベルの現状を知るため、定期的に「現地監査」を行っています。現地監査で洗い出した課題はグループ全体で共有し、グループ全体のレベルアップを図っています。

2012年は中国の3拠点を対象に、監査後のレベルアップ研修会を開催しました。研修会では、改善事例を現地現物で確認し、相互研鑽を行っています。

①現地監査



▲現地監査の様子



②課題共有



▲グローバル連絡会での課題の共有

③キーマン育成



▲レベルアップ研修会

VOICE



研修会受講者の感想
TRCF (中国) 何 文佳さん

TRCFは、2011年に東海理化の監査を受け、弱みの改善に取り組んできました。しかし、実際の改善事例を知らないこともあり、行き詰まっている所もありました。今回、レベルアップ研修に参加することで、現地現物で東海理化の活動を肌で感じる事ができました。学んだことは、持ち帰り社内の活動に活かしていきたいです。

国内グループ会社との連携

2009年度より、国内子会社と連絡会を定期開催しています。環境法令の順守や省エネ活動、廃棄物低減事例についての情報共有に加えて、原動力の維持管理や不具合情報の共有による未然防止を図っています。毎回現地現物で改善事例を確認し、グループ全体のレベルアップに役立っています。



▲改善事例の現地見学会